

## 高等学校普通科・総合学科における専門教科の実施状況 —専門教科情報科の状況を中心に—

### Situation of Specialized Subjects in Normal Course and Integrated Course of High Schools -Focus on Information Studies-

深谷 和義

Kazuyoshi FUKAYA

相山女学園大学教育学部

School of Education, Sugiyama Jogakuen University

Email: kfukaya@sugiyama-u.ac.jp

**あらまし**：高等学校普通科・総合学科において専門教科を実施している状況を、愛知県立高等学校を対象に調査した。まず、普通科に対して、2005年度入学者と2013年度入学者とを比較した。その結果、科目数の合計で1.41倍に増加していることが分かった。特に、情報科の実施が3倍以上に増加していた。また、開講学年の状況では、いずれの学年においても、必修としている科目が特に増加していた。一方、総合学科に対しては、2013年度入学者で普通科の状況と比較した。その結果、総合学科では情報科よりも商業科等の職業科目が多く実施されていることが分かった。

**キーワード**：高等学校、専門教科、普通科、総合学科、情報科

#### 1. はじめに

高等学校の教科には、大きく分けると共通教科と専門教科とがある。専門教育は、従来は「専門教育に関する各教科・科目」とされていたが、現行の学習指導要領<sup>(1)</sup>では、「主として専門学科において開設される各教科」となっている。

高等学校の学科には、普通科、専門学科、総合学科がある。専門教科が「主として専門学科において」とされているのは、普通科や総合学科においても開設することを想定している意味になる。

普通科において専門教科を開設する場合、少ない単位数だけその教科を開設することになる。そのため、教員の担当時数の関係で、専門教科を開設できないことが考えられる。しかし、専門教科のうち、情報科と家庭科は共通教科にも同じ教科名がある。教員免許がそれぞれ共通なため、両教科の教員は、幅広い科目を担当できる。その意味で、これらの教科は普通科においても開設しやすいことになる。

本研究では、以上を踏まえて、普通科、総合学科における専門教科の実施状況を明らかにする。

#### 2. 専門教科

現行の学習指導要領においては、専門教科に「農業」「工業」「商業」「水産」「家庭」「看護」「情報」「福祉」「理数」「体育」「音楽」「美術」「英語」の13教科ある。

それらの中で、職業学科と呼ばれる学科で開設されている教科は、「農業」「工業」「商業」「水産」「家庭」「看護」などである。

一方、学習指導要領では、共通教科及び専門教科以外に学校設定教科を設けることができとしている。これは、「学校においては、地域、学校及び生徒

の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう」に「設けることができる」とされている。総合学科において原則履修科目とされている「産業社会と人間」は、学校設定教科に関する科目の一つである。本研究では、学校設定教科において、その内容により専門教科に近いと筆者が考えた教科においては、専門教科と同様に扱う。

#### 3. 調査方法

本研究においては、調査対象を愛知県立高等学校とした。2014年度における愛知県立高等学校は148校ある。そこから、普通科・総合学科だけを扱うため、専門学科のみ設置されている学校を除いた。また、人数や授業形態が異なる定時制・通信制を除いて全日制課程を対象とした。

調査は学校ごとに毎年度作成している公文書の学校経営案<sup>(2)</sup>によって行った。まず、設置されている学科を確認した。次に、「教育課程」から開講されている専門教科を調べた。専門教科ごとに、科目名、開講学年、必修・選択の別を調べた。教育課程は、年度ごとに多少なりとも変わる可能性があるが、中間の学年である2学年を対象とした。2学年は2013年度入学者となる。

普通科においては、変動している可能性が高いことを予想し、比較できるよう2006年度の学校経営案も調査した。ここでも学年は2学年である2005年度入学者を対象とした。なお、2005年度は情報科の完成年度である。

#### 4. 調査結果と考察

##### 4.1 専門教科実施学校数

2014年度における148校の愛知県立高等学校の中

で、全日制課程がない学校が2校あった。また、専門学科のみの学校が35校あった。残る111校中、普通科のある学校が102校、総合学科のある学校が9校であった。

専門教科を実施している学校は、普通科では102校中の35校(34.3%)である。総合学科では、9校すべてであった。

一方、2006年度における普通科では、専門教科を実施している学校は32校あった。なお、2014年度における普通科102校と比較するため、2006年度に普通科であったが2014年度には総合学科になっている4校を除いている。

#### 4.2 普通科の状況

普通科における2005年度入学者および2013年度入学者の専門教科ごとの実施学校数を図1に示す。教科数は、いずれの年度においても9教科である。ただし、本研究において、学校設定教科は教科名に関わらず同一教科として扱っている。教科ごとの学校数の延べ数は、2005年度が49校であったのに対し、2013年度では57校と1.16倍に増加している。どちらの年度も一番多くの学校で実施されている教科が家庭科であることは同様である。しかし、2番目に多く実施されている教科は、2005年度では商業科だったが、2013年度では情報科となった。

次に、両年度における専門教科ごとの実施科目数を図2に示す。教科ごとの科目数の延べ数は、2005年度が104科目であったのに対し、2013年度には147科目に増加している。102校の平均で1.02から1.44科目への増加である。これは、学校数の場合よりも大幅な増加である。教科による傾向では、2005年度は商業科と家庭科が29科目で最多であったが、2013年度では情報科が45科目で1番多くなっている。

更に、開講学年別科目数の状況を図3に示す。学年ごとに必修科目と選択科目とを分けて示している。両年度とも学年が進むにつれて科目数が多くなっている。また、1, 2学年では必修科目の方が多く、3学年では選択科目の方が多くなっている。2005年度に比べて2013年度では、どの学年も選択科目より必修科目の増加が多くなっている。

#### 4.3 総合学科の状況

総合学科における専門教科の実施状況を図4に示す。(a)は2013年度における学校数、(b)は同じく科目数である。学校数では、普通科に比べると学校設定教科が多くなっており情報科が少なくなっている。科目数では、計407科目で9校の平均では45.2科目となっている。科目では商業科が非常に多くなっており、情報科が少なくなっている。これらは、総合学科においては、幅広い内容を教える意図と、職業科目を教える意図からだと考えられる。

### 5. まとめ

普通科で実施されている専門教科は、1校当たり2005年度入学者に対して2013年度入学者は大幅に

増加していることが分かった。特に、情報科の実施が多くなっていった。また、開講学年は、どの学年も必修が特に多くなっていった。総合学科では、情報科よりも職業教科である商業科が依然として多く実施されていることが分かった。

#### 参考文献

- (1) 文部科学省:“高等学校学習指導要領”, 東山書房(2011)
- (2) 愛知県立高等学校(学校ごとに発行):“平成26年度学校経営案”, (2014)

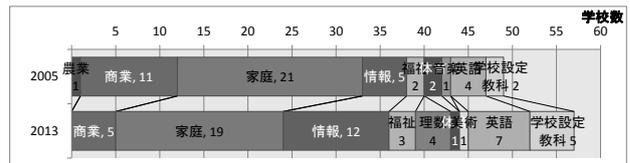


図1 普通科の専門教科実施学校数

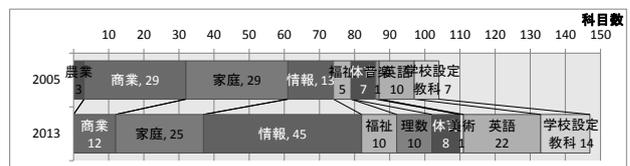
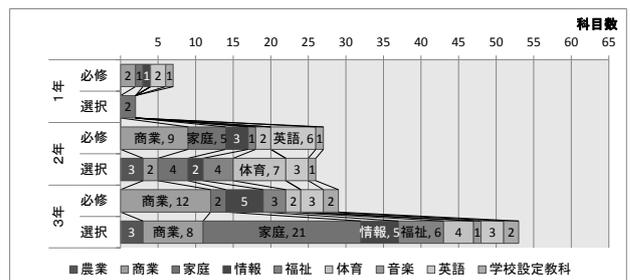
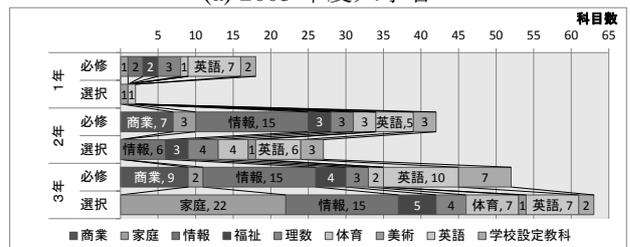


図2 普通科の専門教科実施科目数

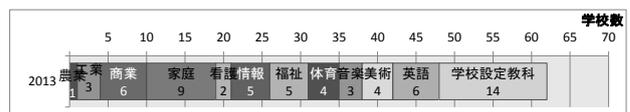


(a) 2005年度入学者



(b) 2013年度入学者

図3 普通科の専門教科開講学年



(a) 学校数



(b) 科目数

図4 総合学科の専門教科実施状況